

令和 5 年 10 月

東京都建設局

「土砂災害防止に関する絵画・作文」

令和 5 年度 受賞作品決定のお知らせ

東京都では、6月の土砂災害防止月間の一環として、小・中学生を対象に土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行いました。その結果、合計で94点の応募がありました。その中から選考を行い、絵画の部（小学生）4点、同（中学生）4点、作文の部（小学生）2点、同（中学生）1点の受賞作品を決定しましたのでお知らせします。

## 建設局長賞 絵画の部(小学生)



東久留米市立  
第三小学校  
2年 成田 葵さん



大田区立  
久原小学校  
5年 渋谷 仁乃さん

## 建設局長賞 絵画の部(中学生)



八王子市立  
櫛田中学校  
1年 有泉 貴史さん



大田区立  
志茂田中学校  
1年 杉山 優凜香さん

## 河川部長賞 絵画の部(小学生)



大田区立  
久原小学校  
2年 渋谷 理仁さん

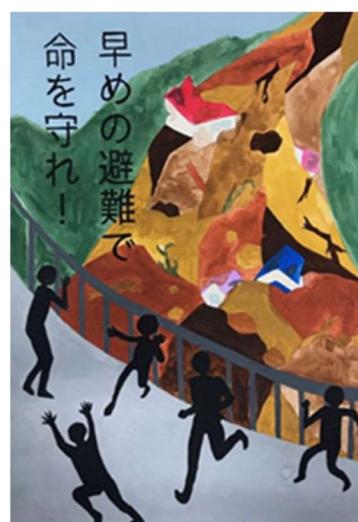


八王子市立  
横山第一小学校  
2年 有泉 和香さん

## 河川部長賞 絵画の部(中学生)



江戸川区立  
松江第二中学校  
3年 細川 唯莉さん



八王子市立  
みなみ野中学校  
2年 橋本 結月さん

## 明日を守る私たちの行動

国立学園小学校 二年

田中 夢乃

私は、ようち園のころから気象にきょうみがあります。勉強をしていくと、気象のへんかはさいがいにもつながることを知りました。しゅう中ごう雨は毎年ふえていて、四十五年間で二倍になっています。線状こう水たいということばも新聞やニュースでよく見ます。気象よほう土さんが台風や大雨の時に、「土砂さいがいにちゅういしてください。」と言っていて、そんなに多く発生しているのかな、とぎもんに思いました。

調べてみると、年間一千けんもおきていて、土砂さいがいのきけんがある所は東京都だけで一万五千か所もあるとあって、おどろきました。日本の多くは山地で、火山も多く、もろくて崩れやすい特ちょうがあることを、気象科学かんで知りました。テレビであつという間に家や車が、土や岩やにごった水にのみこまれるのを見て、とてもこわいとかんじました。砂防えんていや、けいしや保全工などたくさんの対さくをしているけれど、時間やお金が多くかかります。でも、台風やしゅう中ごう雨は待つてくれません。

私がすむ町は、大雨がふったらどうなるんだろう。何に気をつければいいんだろう。と思い、いっしょにすむおばあちゃんにそうだんしました。おばあちゃんが

「町の特ちょうをすることから、はじめよう。」と言ってくれたので、市役所へ行ってハザードマップと土砂さいがいけいかい区いきマップをもらいました。見てみると、ひなん場所は家族で何度もかくにんしたことがあるので知っています。でも、バスていの近くに地区さいがい時待ひ所の協力のう地があることは、初めてしりました。また、私がバスで通学をする時に、より安全な道をとおることができるよう、家族全いで歩いてみました。一人ひとり

生活する場所も、くらしもちがうから、一人ひとり自分に合った命を守るじゅんびが大切なんだ、と気付きました。

また、私が空や雲を見て天気のへんかに気づくように、土砂さいがいにも前ぶれがあるとニュースで聞きました。土砂さいがいをうけた町の人がインタビューに、

「小さい川の水がふえて、小石がおちてきたり、山のほうでいつもとちがう音がしていた。」とこたえていました。いつもとちがうということもちゅういがひつようだとかんじました。

そして、なぜ日本に土砂さいがいがふえているのかを考えることも大切です。人が出しつづけている二酸化炭素をへらすことがさいがいの対さくにもなります。私は八さいですが、できることがあります。それは、地球温だん化を止めるために行動すること、それを周りの人に伝えることです。一人ひとりが行動を少しかえれば、さいがいはへつて、自然とともに安心なくらしが続いていくと思います。私は、一つ一つ行動していきます。

土砂災害について

葛飾区立新宿中学校 一年

上月 大和

みなさんは、土砂災害の被害についてどれくらい知っていますか。2022年の死者・行方不明者数四名、被害件数は795件もありました。土砂災害は、山の近くのみならず、様々な場所で起こっています。そこで僕は、土砂災害について調べて、対策方法について発表します。

まずは、土砂災害についてです。土砂災害は、土石流、地すべり、がけ崩れの三つに分類できます。土石流は、大雨などが原因の山や谷の土・石・砂が崩れて、一気に流れ出てくる現象です。破壊力が大きく、大きな被害が出ます。地すべりは、雨や雪解け水がしみこんだ地下水によって、広い範囲にわたってすべり落ちていく現象です。少しずつ動くことが普通ですが、一気に動くこともあります。さらに、地震などがきっかけで起こる地すべりもあります。がけ崩れは、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。雨水がたくさんしみこんだことや地震の揺れにより起きます。

次に、土砂災害の被害例を紹介します。一つ目は、平成30年7月豪雨です。死者・行方不明者数245名、負傷者数433名、被害にあった建物数は、50470棟の大きな災害で、土砂災害発生件数は2581件でその内訳は、がけ崩れ1734件、地すべり56件、土石流等791件です。前線や台風七号の影響により、長期間にわたる大雨をもたらしました。二つ目は、令和元年東日本台風・低気圧です。死者・行方不明者数121名、負傷者数388名、被害にあった建物数は、105699棟で先程紹介した平成30年7月豪雨よりも被害にあった建物数が多いことが分かります。強い台風が上陸し、ライフラインへ被害が出ました。一日あたりの最大雨量は、神奈川県足柄下郡箱根町の942・5ミリです。

次に、国の対策を紹介します。一つ目は、土砂流出を防ぐための砂防設備の整備です。土砂の堆積による氾濫を防ぐための取り組みです。二つ目は、地すべり防止施設の集水井の整備です。集水井は、地すべりの原因となる地下水を取り除くことができます。三つ目は、土砂災害の危険性のある地域の監視・観測です。効果的な土砂災害対策の実施に活用していくことができます。四つ目は、土砂災害防止法によるソフト対策というものです。土砂災害警戒区域等を指定することにより、警戒避難体制の整備や開発行為の制限を実施するという取り組みです。五つ目は、コミュニケーションツールを活用した情報の提供です。迅速な避難行動の実施を支援することができます。

次に、僕たちにできる対策を紹介します。一つ目は、「住んでいる場所が、土砂災害警戒区域か確認する」です。土砂災害のおそれのある地区は、土砂災害警戒区域となっているので、確認することが大切です。さらに、ハザードマップで避難場所・避難経路を確認することが大切です。二つ目は、「土砂災害警戒情報や雨量の情報を注意する」です。このような情報は、インターネットで確認することができます。もしも、警戒レベルが4になったら、急いで安全な場所（避難場所など）に避難しないといけません。さらに、土砂災害の危険がある時は、土砂災害の多くは一階で被災しているのです。二階以上の場所で生活することが大切です。

今回僕は、土砂災害について調べてみて、国と僕たち国民どちらもが対策をしっかりと行うことが大切ということが分かりました。国は、土砂災害を起こさないために、擁壁（側面の土を防ぐ構造物）などの土砂災害を防ぐことができるものを整備することが大切だと思います。さらに、土砂災害の危険性や対策を伝える活動をもっと行う必要があると思います。ですが、ここまで紹介した対策は、限界があつて土砂災害が発生するのを完全に防ぐことは難しいと思います。なので、僕たち国民は、国などが発信する対策などをしっかりと理解し、いざという時は取るべき行動を急いで行うことが必要だと思います。僕は、今まで住んでいる場所の土砂災害の危険性や対策について知らなかつ

たので、今回調べたことをしっかりと覚えておきたいです。  
さらに、土砂災害の警報が発令されたら、取るべき行動を  
急いで行うようにしたいです。

どしゃさいがいについて、かんがえたこと

めいせいしょうがっこう 一ねん

いとう あらた

きょうは、ぼうさいきょうしつで、どしゃさいがいについて、もけいでじっけんしているところをけんがくしました。

じすべりと、がけくずれのちがいがわかりました。じすべりは、ようかんが、すべりおちたような、げんしょうです。がけくずれは、プリンがぼろぼろになってしまって、まちまでくるようなことです。どちらも、かたちはちがうけれどあつというまのできごとです。ほんとうにまちにどしゃがくるのは、こわいです。さいごに、「そなえあれば、うれいなし」とおしえてもらったので、がっこうで、もらったマイ・タイムラインをみなおしました。

ぼくは、いえにいますときなら、けいかいれべるにの、ちゆういほうのじてんで、じしゆひなんをしたほうがいと、かんがえました。もう一つかんがえたことは、さいがいは、そとで、おこるかもしれないということです。ぼくは、たかおさんや、たまがわで、あそぶことがすきなのですが、どしゃさいがいも、かわのはんらんも、しぜんのちからなので、そとにでかけるときは、てんきよほうをみて、きをつけてます。